２０２６年１１月２２日（日）

日本基督教団　大宮教会

降誕前節第５主日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19～20）

朝第１礼拝 9:00～10:00

朝第２礼拝 10:30～11:45

〈神の招き〉

前奏　①天にましします我らの父よ　バッハ
②いと高きところに神の栄光あれ　ヴァルター

招きの詞　詩編６７：２～８

交読詩編　１８：４７～５１

讃美歌　１２７

〈神の言葉〉

聖書　民数記６章６：２２～２７
（旧約　聖書協会共同訳 1405 頁）
エフェソの信徒への手紙６：２１～２４
（新約　聖書協会共同訳 352 頁）

祈祷

讃美歌　２０６

説教　「平和、愛、恵み」
佐藤潤伝道師

祈祷

黙想

讃美歌　４０３

〈神への応答〉

使徒信条

献金

主の祈り

宣教報告②

頌栄　２６

派遣と祝福

後奏　①われは汝に望みをおきたり　バッヘルベル
②慈しみ深いイエスよ　バッハ

宣教報告①

今週の御言葉

父なる神と主イエス・キリストから、平和と、信仰を伴う愛とが、きょうだいたちにありますように。恵みが、私たちの主イエス・キリストを変わることなく愛する、すべての人と共にありますように。
（エフェソの信徒への手紙６：２３～２４）

サテライトチャーチ植竹礼拝 10:30～11:30

夕礼拝 18:00～19:00

〈神の招き〉

前奏　私は神より離れない　J.M.バッハ

招きの詞　詩編６７：２～８

交読詩編　１８：４７～５１

讃美歌　４

〈神の言葉〉

聖書　イザヤ書２６：１６～１９
（旧約　聖書協会共同訳 1084 頁）
ヨハネによる福音書１１：１７～２７
（新約　聖書協会共同訳 183 頁）

祈祷

讃美歌　５２９

説教　「主イエスは復活・命」
熊江秀一牧師

祈祷

黙想

讃美歌　３３５

〈神への応答〉

使徒信条

献金

主の祈り

宣教報告

頌栄　２８

派遣と祝福

後奏　イエスは私の喜び　ツァッハウ

ワーシップ（賛美礼拝） 14：00～15：00
説教「救いが近づいている」 熊江秀一牧師、
ローマの信徒への手紙 13:11～14
賛美：ハヌカ、みんな賛美、ありのままソング、主イエス神の愛、主イエスと歩く道、主の祈り、
主は良いお方、死を打ち破り

次週の礼拝（１１月29日）アドベント第一主日

① ９：００　② １０：３０
説教「ザカリヤとエリサベト」
熊江秀一牧師
出エジプト記１４：１３～１４、
ルカによる福音書１：５～２５
交読詩編２５：１～１４
讃美歌２３１、２４２(1)、２２６、２８

夕 １８：００
説教「神の国はすでに来ている」
佐藤潤伝道師
出エジプト記８：１２～１５、
ルカによる福音書１１：１４～２３
交読詩編２５：１～１４
讃美歌１２０、４４３、５０４、２６

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第１礼拝、②は朝第２礼拝、夕は夕礼拝。

■<u>今週の祈祷課題</u>■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2．熊本地震と東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に　3．アドベントを前にして
4．クリスマス準備会の為に　5．関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の為に
6．教区秋季按手式の為に　7．埼玉地区の為に　8．世界にキリストの平和がある為に
9．病気の兄姉の為に

＊関東教区お祈りカレンダー　聖学院教会　　埼玉新生教会　　埼玉大通り教会

◇先週の説教より　「キリストによる救い」（信仰告白③）イザヤ書５３章３～５節、フィリピの信徒への手紙２章６～８節　　熊江秀一牧師

日本基督教団信仰告白の第二段落は「神について」の告白である。神は「主イエス・キリストによりて」ご自身を「啓示」される。それは言い換えれば、キリストを証しする「聖書」によってご自身を示す神である。

このキリストの啓示と聖書を通して示される私たちの神は「唯一の神」であり、「父・子・聖霊なる三位一体の神」である。

神は唯一のお方である。しかし唯一の神は、父なる神であり、世に来られた子なるキリストなる神であり、聖霊なる神である。神はこの三つの姿によって創造、救い、完成という御業をなさり、愛を示された。三位一体の「位」は「ペルソナ」（役割）（英語のパーソン（人格））である。神はお一人だが、三つの人格と役割を持って働かれる。神はそこまでして私たちを愛し、出会って下さる。

この神の愛の頂点が御子イエス・キリストによる救いである。

その救いが、受肉と十字架によって告白される。「御子は我ら罪人の救いのために人となり」。最も高き完全なお方が、「我ら罪人の救い」のために低く降られ、人となられた。そして御子は「我ら罪人の救い」のために十字架の道を歩まれた。「ひとたび己をまったき犠牲として神に捧げ、我らの贖いとなりたまえり」。イザヤの預言した苦難の僕の犠牲による罪の赦しは御子キリストの十字架によって実現した。それは「ひとたび」「まったき」犠牲である。ただ一度の十字架の犠牲によって我ら罪人の完全な罪の贖いが成し遂げられた。御子は私たちの罪という大きな負債を、ご自分の命という代価を支払うことで「贖い」、私たちを「救い」出して下さった。私たちもこの信仰告白に告白された、「神について」の信仰、御子の十字架による救いの信仰に堅く立ち歩もう。